

## No.15 京都工芸研究会便り

新年 謹賀

年頭の挨拶

京都工芸研究会会員の皆様

あけましておめでとぅございます。  
本年も皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は豪雨、地震、そして台風など、これまでに体験したことのないといわれた災害が起こりました。被害に遭われました方には改めてお見舞いを申し上げます。

さて本年は様々な意味で重要な年となりそうです。まず、約三十年間慣れ親しんだ「平成」が終わる年であり、一つの時代の区切りを経験する年でもあります。対外的には、来年に控えている東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした大きなスポーツイベントへの準備が進められ、国内に活気が生まれるでしょう。

また、世界各国から多くの人々が日本へ、そして京都へ訪れることになるでしょう。この貴重な機会に、京都でしか触れることのできない日本の伝統文化の奥深さを感じていただき、それぞれの国に持ち帰っていただけるような国際交流の場になること。これが京都の役割の一つではないかと思っております。

こうした動きの中で、研究会としても会員の皆様を持つ多様な工芸技術を通じた「異業種交流」がより重要な意味を持つように思います。特に、昨年四月から発足した「事業企画チーム」の活躍により、これまでになく新しい発想の事業が企画されており、研究会もこれからの時代に即していくためには、あらゆるチャレンジが大切であることを改めて感じております。

時代の変化はますますスピードアップしています。これからの時代にあった京都の工芸とはどんな姿をしているのでしょうか。それを探求していくために、浮き足立つことなくゆったりとし、かし未来を見ながら着実に歩み続け、より一層充実した事業展開を進めていく一年としたいと念じております。

変わらぬご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

京都工芸研究会 委員長

大塚正洋

## 1. 2019年 パワーアップ事業企画 トークセッション「工芸な人々」開催します!

今年度の研究会事業の企画、実施は「事業企画チーム」と協力してすすめております。昨年中の技術講習会、観覧会見学、「うえるかむまつり2018」参加(裏面参照)などなど非常に盛りだくさんな内容でした。2019年もさらにパワーアップして事業企画をすすめます。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています!

## ■京都工芸研究会 presents トークセッション「工芸な人々」

伝統産業に生きる「工芸な人々」がこれから「どう生き残っていくか?」をテーマに、会員さんと一般参加者がオープンに語り合うトークセッション(座談会)です。伝統産業業界の魅力、デジタルとアナログ、知的財産、後継者問題、ものづくり現場の未来といったシリアスな課題、ここだけの話など、企業のデザイン開発部署の方や工芸の道を志す学生さんに参加いただいて、ぶっちゃけトークいたしましょう。そこから、京都の工芸の未来に新しい切り口やヒントを得られればと思います。(参加申込は所定の申込書で事務局へ)

## ◆概要

日 時:2019年2月18日(月)19:15~21:15(受付19:00~19:15)  
場 所:マテリアル京都(五条富小路下る 京都市下京区本塩竈町554)  
参加者:工芸研究会会員, 会員以外の伝統産業従事者, 一般(会社員, 学生)  
参加費:500円(1ドリンク付)\*会員は無料



■今後、「デジタル3D技術活用講習会(第2回)」(2月14,15日),「産地見学会」(3月中旬)を予定, 乞うご期待!

## 2. 事業報告 見学会 「明治宮廷を彩る技と美」 / 「うえるかむまつり2018」

### ■特別展「華ひらく皇室文化 明治150年記念 明治宮廷を彩る技と美」(11月2日(金) 京都文化博物館)

皇室に由来する美術・工芸品を集めたこの展覧会、金属工芸、漆器、和装洋装の衣服、室内装飾や家具に用いられた織物類など多岐にわたる展示品を拝見しました。見学に先だち、同館学芸課長・畑智子氏より展示解説と特に七宝に関する講演をいただきましたが、その甲斐あって「菊御紋蝶松唐草文七宝花瓶」(並河靖之作)を始めとした目をみはるような素晴らしい七宝作品の理解を深めることができました。明治期の欧化政策の中で西洋風のデザインで新たな工芸品を実現する京都の技術の高さを改めて実感できました。



### ■うえるかむまつり2018 (11/10(土)~11(日) NPO法人丹波漆主催(福知山市夜久野町))



11/10 講演会とシンポジウム

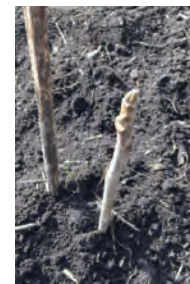
NPO法人丹波漆は、「丹波漆」生産と普及を目指して活動しており、毎年11月開催の「うえるかむまつり」を開催しています。このイベントに会員7名と参加しました。

初日は講演会「文化財を支える技術と丹波漆」で文化庁・原唯氏より、文化財建造物における漆の100%国産化を目標とした取組について、お話いただきました。シンポジウムでは、国産漆の供給状況や生産者側からの課題について報告、そして会場からの発言など率直な意見交換がなされました。二日目は漆苗を畑に実際に植える活動に参加しました。京谷氏(晋六窯)から「良い勉強になった。皆さんの熱意が印象的だった」。細川氏(竹工芸喜節)から「漆の業界は、材料の生産から商品加工まで一体感があり、非常に良い影響を受けた。課題の共有の仕方など、竹の業界でも是非参考にしたい」との感想をいただきました。多様な分野で構成される工芸研究会として、分野を横断する取組に参加することは非常に有意義でした。

11/11 漆苗植栽活動



漆の苗一本につき根の張る方角や土中の空気の含ませ方等、細かな指導を受ける。



← 植え付けた苗は3年生。漆が採取できるのはこの後10数年かけて成長した後となる。

## 3. 「デジタル3D技術活用講習会」10/22(火),23(水)

3DCADソフトを活用したモデリングやデザイン検討、解析(強度解析や熱解析)の講習会。産技研主催(デザインチーム担当)、工芸研究会として共催しました。

モデリング講習で作成した「急須」と「栓抜き」の3Dプリントモデル(光硬化性樹脂製)を参加者全員に提供しましたが、今年度導入した小型の3Dプリンタは表面の滑らかさが特徴で、製造型への活用やデジタルならではのデザイン創出に可能性があるといったご意見をいただいています。今後、京都の伝統産業にフィットした活用方法へのヒントも見つかる場となりそうです。第2回目を2月中旬に実施予定です。



## 4. 第3回委員会 12/19(水)

今年度の事業と予算執行状況の報告に対して審議、確認を行いました。さらに、実施予定の事業について意見交換を行いました。

また、懸案であった旧工芸研究会製品開発研究事業成果品(産技研で保管)については、制作担当された方々に返却することで一致し、事務局で連絡等の対応を行うこととしました。次回(第4回)は3月中の開催を予定しています。

### 事務局より

○2019年1-3月の主な予定

- 1/17(木) 18:00~20:00 竹編組勉強会(9)
- 2/ 7(木) 15:30~19:00 ものづくり協力会新春講演会
- 2月上旬 事業企画チームミーティング(6)
- 2/14(木),15(金) デジタル3D技術活用講習会(第2回)
- 2/18(月) 19:15~21:15 トークセッション「工芸な人々」
- 2/21(木) 17:00~18:30 研究例会(共催)
- 2/21(木) 18:00~20:00 竹編組勉強会(10)
- 3月中旬 18:00~20:00 竹編組勉強会(11)
- 3月中~下旬 産地見学会, 第4回委員会

**祝** 受賞おめでとうございます

<平成30年度全国伝統工芸品公募展 内閣総理大臣賞>  
細川 秀章様(竹工芸喜節)

<平成30年度伝統的工芸品産業功労者等近畿経済産業局長表彰>  
藤岡 春樹様(藤岡光影堂 京表具協同組合連合会)

<平成30年度伝統的工芸品産業功労者等経済産業大臣表彰>  
饗庭 智之様(京うちわ 阿以波 京都扇子団扇商工協同組合)